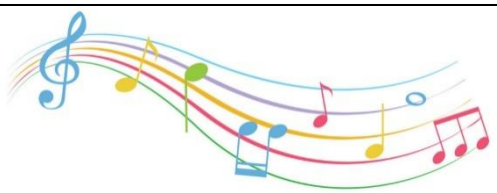
十中だより

令和８年１１月２日発行
第 ７ 号
目黒区立第十中学校

【教育目標】 自ら課題を追求し、主体的に生きる人間性豊かな生徒を育むために
自ら鍛える生徒、求めて学ぶ生徒、互いに認め合う生徒の育成を図る

〒152-0023 目黒区八雲 5-2-1 TEL 03(3718)6406 Fax03(3718)6144
http:// www.meguro.ed.jp/meguro10j/



仲　間



校長　安藤　咲織

中学校の二大行事といえば、運動会と合唱コンクール。大人になっても多くの人が思い出すのが、この二つだと思います。そんな一生モノの学校行事が、今年も１０月２０日（火）にめぐろパーシモンホールで行われました。それぞれの学年・学級が、互いの心を一つにして歌い上げる姿に、観客席からは盛大な拍手が湧き上がりました。「上手い・下手」ではなく、一人ひとりの「一生懸命取り組む姿」が、人の心を動かします。特に、三年生の歌声には「魂」が込められていました。その裏側には、こんなエピソードがあったと聞いたので、一・二年生にも紹介します。（以下、三年生の阿部先生から聞いたお話です。）

本番の一週間前に、三年生が変わるきっかけがありました。小学校の五年生が、三年生のリハーサルを見に来てくれましたが、その時はまだどのクラスも苦しんでいたんです。全員の心と声が一つになりきれなくて。正直、上手くいってなかったと思います。

でも、リハーサルの翌日。実行委員の生徒たちが「先生、練習時間をください！」と頼みに来ました。気持ちは分かるけど、授業時間は削れない。学活の時間もすでに予定が決まっている。ここまで頑張ってきた実行委員たちに、サプライズでメッセージを送る計画もありました。だから「時間は作れない。無理だよ。」と伝えました。すると「メッセージはいらないので、少しでも練習時間をください。みんなを本気にさせる時間をください！」と言われたんです。

その日から本番までたった数日でしたが、昼休みに教室から練習する声が聞こえるようになりました。自分たちで考え、自分たちで選び、自分たちで決めて実践した。そんな三年生の優しさと温かさ、そして一生懸命やる姿から感動をもらいました。

閉会式で実行委員長から「合唱コンールを通して、賞に関係なく、ここまでの過程が大切だということを学びました。これから先の勉強や進路選択、全てについてこれが言えると思うので、みなさんも過程を大切にできる十中生を目指してほしいと思います。」という話がありました。まさにその通りですね。

１０月２９日（木）には、同じく、めぐろパーシモンホールで目黒区立中学校連合音楽会（区連音）が行われました。参加したのは二年生ですが、合唱コンクール直後ということもあり、練習は三回しかできませんでした。歌詞を覚えきれていない人や、なかなか気持ちが入らない人もいましたが、一生懸命歌おうとしている姿を見て「心から応援したい！」と思いました。本番直前に行った体育館での練習は、いつもより引き締まったみんなの顔が見られ、二年生の本気を感じました。ホールでの合唱は最高でしたね！歌はもちろん、鑑賞態度も立派でした。他校より人数が少ないので、声量はどうしてもかないませんが、しっかり前を向き堂々としている十中生がかっこ良かったです。

「過程を大切にしよう」というのは、よく耳にする言葉です。でも、実際には難しいこともあります。後から気づいて「あの時、ちゃんとやっておけば良かった」ということは山ほどあります。だからこそ、仲間が必要なんです。くじけそうになった時、どうしても頑張れない時に、そっと声をかけてくれる仲間。「ほら、一緒に頑張ろう！」と肩を叩いてくれる仲間。そんな仲間を大切に、これからも困難を乗り越えていってほしいと思います。

区連体代替行事『十連体』を終えて

保健体育科・生徒会担当　松田悠也

後期初日の 10 月 13 日（火）に、9 月 28 日（火）に実施予定だった区連体の代替行事として、生徒会役員が進行役となって「十連体」が行われました。急遽実施が決まった行事ではありましたが、選手たちも気持ちを入れ換えて競技に参加し成果を発揮し、賞状とメダルを獲得した選手も多くいました。

また、生徒会が企画運営した全校生徒参加のクイズ大会も盛り上がり、約２時間という短い時間の中で、中身の濃い行事となりました。選手以外の生徒たちの声援も大変温かく、代替行事とは思えないくらいの盛り上がりを見せた行事だったと感じました。当日朝早くから校庭のライン引きやテントの設営等、多くの生徒が協力して準備していました。一つのことを実現する為に、多くの人が携わり創り上げていく、あらためてそのことの大切さや素晴らしさに気が付くことができる機会となりました。





人権講演会Ⅱ　子どもが「自分で決める」を支えるということ

人権教育担当　阿部康之

～子どもを動かす関わりから、子どもが動き出す支援へ～

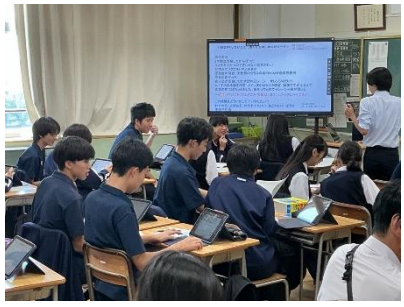
10 月８日(木)に、人権教育推進校の取組として、スクールカウンセラーの普川くみ子さんを招き、保護者向け講演会を開催しました。子どもは本来、「自分でやりたい」「自分で決めたい」という力をもっています。大切だからこそ先回りしてしまう大人の関わりを振り返り、「あなたはどうしたい？」と問い、子どもが自分で考え、選ぶ時間を待つことの大切さを学びました。失敗しない道を用意するよりも、失敗しても立て直せる関係を築くこと。私たち教員自身も、日頃の関わりを振り返る機会となりました。今後も、保護者・地域・学校が同じ目線で子どもたちの主体性を支えられるよう、共に学ぶ機会をつくっていきたいと思います。





人権ワークショップ　対話を通して、自分の知らなかった自分に出会う

10 月９日(金)に、三年生がホワイトボード・ミーティング®認定講師の横山弘美さんを招き、対話を通して自分の経験や成長を見つめ直す授業を行いました。身近な話題から始まり、中学校生活三年間で頑張ったことについて対話しました。相手の話をじっくり聴き、「もう少し詳しく教えて」「例えば？」などのオープンクエスチョンで経験を深く掘り下げました。すると、普段は口数の少ない生徒が生き生きと語り、自分でも気づいていなかった頑張りや大切にしてきた思いを発見する姿が見られました。相手の言葉を受け止め、互いを認め合う対話は、一人ひとりの可能性を引き出す、人権尊重のスキルです。今後はこの学びを生かし、自分らしい進路選択につなげていきます。


あいさつ運動秋編 10/27(火)～30(金)

副校長　関根　公子

春の二年生に代わり秋のあいさつ運動は、一年生がこの半年の成長した姿で里帰りした母校で行いました。未来の先輩から後輩へ、クラスの仲間から地域の方々まで、あいさつを通してお互いの距離感が縮まり、自然と笑顔が生まれていました。『●●さん、おはよう！』とっても嬉しそうでした。この活動は、これからも十中学区の児童生徒そして教職員や保護者、地域の方々の心をつなぐバトンのような役割を果たしていきます。





◆ 十中生の活躍 ◆



【ソフトテニス部】

・目黒区中学校ソフトテニス選手権大会

・個人戦　女子の部　第３位：山口 麗維・庄子 綾世

・団体戦　女子の部　第３位

【陸上競技部】

・ 第65回目黒区体育祭秋季陸上競技大会 女子区民中学 走幅跳 第3位 4m00

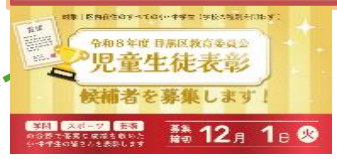
男子区民中学 走幅跳 第2位 4m17

【目黒区英語スピーチコンテスト】

<一般の部>	**第2位**	**田中　響**	（3年 A組 ）
	第5位	**村田 あかり**	（３年 Ｂ組）
<帰国子女の部>	**第１位**	**鈴木 希依**	（１年 A組）

【卓球部】

・目黒区体育祭　秋季卓球大会　第２位　孫　東洲（１年Ｃ組）



児童生徒表彰について

目黒区教育委員会では、学問・研究・文化、スポーツ、芸術の分野で優秀な成績を収めた児童・生徒及び団体を表彰しています。

個人表彰については、保護者等からの自己推薦により候補者を募集しています。表彰基準に該当すると思われる場合は、直接、区教育委員会事務局へ申請してください。

詳しくは、10 月 30 日付けの保護者連絡システムをご確認いただくか、区公式ウェブサイトをご確認ください。

＜応募〆切＞令和８年 12 月１日（火）まで

＜問合せ＞目黒区教育委員会事務局 教育政策課 教育総務係

TEL: 03-5722-9300（直通）　MAIL:kyoiku01@city.meguro.tokyo.jp

区公式ウェブサイト URL、QR コード

https://www.city.meguro.tokyo.jp/kyouikuseisaku/kosodatekyouiku/gakkoukyouiku/hyosyo-gaiyou.html

人権講演会Ⅲ「幸せって、なんだろう？」

～フィリピンの子どもたちとの暮らしから考える～

フィリピンの児童養護施設「ハウスオブジョイ」を運営する澤村信哉さんをお招きし、子どもたちとの日々の暮らしや出会いを通して感じてきたことをお話しいただきます。誰かのために何かをすること、自分自身が楽しむこと、そして人とのつながりについて、一緒に考えてみる時間にしたいと思います。

今年度、地域保護者と共に学ぶ人権講話。脳科学の青砥瑞人さん、スクールカウンセラー普川くみ子さんに続く第３弾となります。参加していただける方は、右記のQRコードを読み取り、１１月１３日（金）までにエントリーをお願いします。

